

2 一般的な学習指導過程

道徳の時間の学習過程とは、ねらいの根底にある道徳的価値について生徒が内面的な自覚を深めていくための指導の手順で、一般的に、導入、展開、終末の各段階を設定することを基本とします。

導 入	※ 本時の主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起し、道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る段階 具 体 例  Point ・生活体験を想起させ、発表させる。 ・事前アンケート調査の結果等の資料を提示する。 ・資料に関する絵画や写真、VTR、DVD や小道具などを見せる。 ・録音したものや、音楽などを聴かせる。 ・ねらいにかかわる新聞記事、生徒作文、詩や短歌などを活用する。 ・地域の人々の協力を得る。 ・実験や観察など実物にふれる体験をさせる。 など ＊ 多様な導入の工夫が考えられます。 ○ 短時間で効果的に行いましょう。 ○ 展開の部分とのつながりを考え、展開がより効果的になるような導入を工夫しましょう。
展 開	※ 主題のねらいを達成するための中心となる段階 (資料によってねらいの根底にある道徳的価値の自覚を深める。) 1 資料提示 ○ 資料提示の方法としては、教師による読み聞かせが一般的に行われています。 その際、以下のような工夫が資料の内容を深く生徒に受け止めさせる上で効果的です。 ・スライド、プレゼンテーションソフト、VTR、DVD 等 ・録音による資料に構成して提示 ・音声や音楽の効果を生かす工夫 ・繰り返し提示 ・部分的に提示 など 生徒が資料の内容を臨場感を持って理解することができたり、主人公や筆者の感じ方や考え方に共感するようにしたりするなど、その資料の特性を生かした資料提示をすることが大切です。 2 話し合い (具体的事例→P. 11) ○ 提示された資料をもとに、多様な感じ方や考え方を話し合い、話し合い、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方について自覚を深められるようにします。



Point

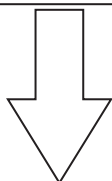
- 道德の時間は、生徒一人一人が道德的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道德的実践力を主体的に身に付ける時間です。主人公の気持ちに共感させるだけでなく、資料に描かれた道德的価値を**自分の問題として受け止め、深く自己を見つめることが可能となるように**しましょう。
- 展開の後半で、今までの自分について振り返る時間をとることもあります。

展

◎ 発問の構成について

発問は、ねらいを達成するために、全体を一体的に捉えられるようにして構成しましょう。

発問1（中心的な発問を生かす発問）



発問2（中心的な発問）



発問3（中心的な発問を生かす発問）

－ 発問を考える手順 －

- ① **中心的な発問を考える。**
・授業のねらいに強くかかわる発問（中心的な発問）を考えます。
- ② **中心的な発問を生かす前後の発問を考える。**
- ③ **補助発問を考える。**

開



Point

- 発問の数は、3つとはかぎりません。また、中心的な発問が常に2番目に位置付けられるともかぎりません。
- 生徒が道德的価値を主体的にとらえ、人間としての生き方の自覚を深められるようにするためには、どのような発問をどの段階であればよいのか、具体的に何について生徒に考えさせるか、明確な指導観をもち、生徒の実態や発達的特質、資料の特質等に即して考え、発問を準備し、構成することが大切です。

終末	※ 1時間の授業のまとめをする段階 ○ 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心に留めたり、生徒一人一人が自らの道徳的な成長や明日への課題などを実感でき、確かめることができるようにします。 具 体 例 ・自分の気持ち等を書く活動 ・感想発表 ・「私たちの道徳」の活用 ・補助的な資料の提示 ・説話、ことわざ、格言 (指導方法の工夫→P. 14)  Point ○ 余韻や充実感を大切にしましょう。 ○ 生徒への叱責、訓戒や行為の押しつけにならないようにしましょう。
-----------	--

留 意 点

—道徳の時間のふり返り— 学ぶ主体の生徒にとって、〇〇があった！

- 発見…わからないことがよくわかった。
- 進展…わかっていたことが、もっとよく分かった。
- 修正…今まで考えていたことが違うものになった。
- 明確…ぼんやり、あいまいだったものがはっきりとした。
- 確信…自分の考えにまちがいのないことがわかり、自信を持てた。
- 補足…自分の考えの足りない点が補えた。
- 覚醒…迷いからさめ、道徳的価値に気付いた。
- 志向…実際にやってみたいと思えた。
- 感動…こんな生き方もあるのかと心の底から思えた。 など